

長野市
環境ビジョン



山にみどり、川に清流、谷に風、空に星、自然と和して発展するまち、人のくらし、みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

手をむすんで

H26.1

秋空のもっとで学習会

活発な意見交換行われる



堀池リーダーから「市民の森」の学習



間伐した木を手のこでギリギリ 気分はきこり

ながの環境パートナーシップ会議は、平成25年11月9日（土）飯縄山麓の「市民の森」で公開学習会を開催しました。今回は市民の森づくりチームの活動を体験してもらうと共に、「アジェンダ21ながの」環境行動計画「2013」や「長野市環境基本計画」を学ぶ学習会でした。

当日は晩秋の黄葉が青空に映えるさわやかな日でした。

午前中は市民の森チームのメンバーの案内で森の散策。参加者は、それぞれのペースで、色とりどりの落ち葉を踏みしめながら歩を進めました。フクロウが巣を作る大きなうろを見ても、南向き展望台からは長野市街が見渡せました。途中で伐採も体験。息を切らせながら鋸を引く、倒したカラマツは直径11cm、年輪が鮮やかでした。いい香りの幹はコースターとしてお土産に。頂上広場は、目の前に飯縄山の展望が広がり、渡り鳥の季節は、バードウォッチングにも最適です。ここで景色を眺めながら昼食でした。

午後からは説明・意見交換会。「アジェンダ21ながの」について金井代表から、「長野市環境基本計画」を市環境部環境政策課の松本課長が説明されました。市民アンケート結果では「地球温暖化」の意識が高く第一位に、また、ゴミ袋有料化や節電の成果から、啓発による環境意識を高めることの重要性が報告されました。参加者からは、「広報は重要だが、義務感に訴えるだけではダメで、市民の森のような楽しさや、夢・ロマン・幸せ、といった多様な価値観から環境を守るやりがい創造するしくみが必要」と提案されました。他にも、「生ごみは資源という意識を周知すべき」「代替エネルギーとして森林県長野は木質バイオマスの利活用をすべき」「協働」のためにも事業者と持ちつ持たれつの関係を構築する必要はある」「名称権など広報活動に利用させては」など、活発な意見交換が行われました。今後もこのような学習会を通じて、より充実した取り組みが行われることを期待します。

※長野冬季オリンピック会場「ボブスレー・リュージュパーク」（長野市中曾根）内の森を、市民の森づくりチームが2004年から整備を続け、里山作りを行っています。